

国際医療支援で広がった交流

結城看護専門学校で講演

結城看護専門学校で6月23日、特別講演が行われ、公益財団法人茨城国際親善厚生財団（IIFF）から鈴木茂事務局長とアマディール・亜来春さんが講師で、国際医療支援とこれからの国際交流をテーマに講演しました。教室には1年から3年の学生114人が詰めかけて、熱心に講演を聴いていました。

講演は『私たちにできる国際協力—海を越えた人々のふれあい』と題し、36年前のインドシナ難民の医療支援から解説。エチオピア飢餓難民の医療支援、アフガン難民の医療支援などを当時の思い出とともに紹介。アフガン難民支援では、IIFFと亜来春さんら4兄弟の出会いを話しました。

亜来春さん兄弟は、IIFFのアフガニスタン難民の医療支援活動に協力。城西病院で治療を受けるアフガニスタンの人たちとのコミュニケーションを助けたり、パキスタンやアフガニスタンの診療所などの活動を支えてきました。戦乱の中、母国のアフガニスタンがどのような状況に陥っていたか、家族がどうやって日本にたどり着いたのかを亜来春さんは語り、学生たちは熱心に耳を傾けていました。

十数年前から始まったタイ北部のゴールドエンライアングルを中心とした医療支援活動に触れ、タイを拠点として感染症防止の事業で、タイ、ミャンマー、ラオス、ベトナムなどの国から医療人を招き、医療研修を行ったり、麻薬撲滅を目的としたタイ王室のメーファールワン財団との交流などを語りました。

最後に、この秋にも日本で外国人技能実習制度で介護の技能実習が行われることに触れ、中国の看護学校などに視察に行ったり、中国から2人の人を視察で受け入れたりと、さらに国際交流の輪が広がっていく様子を紹介しました。

平成29年6月23日

